

『平成28年度 全国学力・学習状況調査 結果・分析』

江戸川区立一之江第二小学校

調査日 平成28年4月19日（火）

対象学年 第6学年実施人数： 113名

【結果】

≪結果≫平均正答率	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	72.8%	61.5%	81.5%	48.3%
江戸川区	71.1%	56.5%	76.3%	46.4%
東京都	73.8%	59.8%	79.4%	49.8%
全国	72.9%	57.8%	77.6%	47.2%

※国語A・算数Aは主として「知識」に関する問題。

※国語B・算数Bは主として「活用」に関する問題

【全体の分析】

○本校は、江戸川区の平均正答率をすべての分野で上回っている。

○全国の平均正答率と比べると、国語Aで0.1%下回っている他は、高い水準にあるといえる。

○東京都の平均正答率と比べると、国語A・算数Bの2項目で下回っているが、国語B・算数Aでは上回っている。特に、算数Aは都の平均よりも2%以上高いことから、ベーシックドリルによる基礎的な学習が定着し始めていると考えられる。

【教科ごとの分析】

国語

	国語A（基礎）					国語B（応用力）			
	全体	話す・聞く	書く	読む	言語	全体	話す・聞く	書く	読む
本校	72.8	82.6	73.9	82.2	69.7	61.5	59.4	55.1	69.3
江戸川区	71.1	79.2	73.4	77.6	68.5	56.5	50.0	51.5	66.9
東京都	73.8	81.6	77.2	79.9	71.2	59.8	52.7	55.2	70.7
全国	72.9	79.2	72.8	78.5	71.1	57.8	51.1	53.4	69.3

○国語の基礎は、言語分野を除き、高い水準にあった。

○言語の分野では、平仮名で表記されたものをローマ字で書くことができず、正当率が低くなった。

○国語の応用は、全体的に高い水準にあった。

○話す・聞くの分野では、話し手の意図を捉えながら聞いたり、話の展開に沿って質問を考えたりする問題の正答率が高かった。

本校では、毎学期に漢字強化週間の取り組みを行っている。また、定期的に漢字の小テストをするなどして、新出漢字の定着を図り、学校全体で児童の意欲付けを図っている。これらの取り組みは今後も継続して行ってきたい。また、今年度は、校内研究でも国語の説明文を取り上げた授業に力を入れている。文章から内容を的確に読み取る力や、それらをよりの確に表現できる力が身に付くよう、児童の学習する環境を整えていく。

算数

	算数A（基礎）					算数B（応用力）				
	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
本校	81.5	83.7	82.2	85.7	72.5	48.3	48.8	43.0	33.0	45.1
江戸川区	76.3	78.6	75.5	79.2	67.8	46.4	44.2	42.4	35.8	43.1
東京都	79.4	81.2	78.5	82.8	73.0	49.8	48.0	44.5	38.2	46.1
全国	77.6	80.5	77.0	78.8	68.5	47.2	44.4	43.7	36.3	42.9

○算数の基礎は、ほぼすべての分野で江戸川区・東京都・全国の平均を上回った。

○算数の応用は、東京都の平均は下回っていた。

○図形の分野は、他の分野に比べて平均正答率が低く、苦手としていることがわかった。

今年度より、毎週水曜日に実施している「学習タイム」では、東京ベーシックを活用して基礎・基本を重点的に復習している。算数は既習事項が定着していないと、授業の中でもつまずく児童が増えてしまう。高学年になると、小数や分数の計算も難易度が上がってくる。学習タイムや家庭学習週間を有効的に活用しながら、各家庭とも連携して、児童の学力の定着を図っていききたい。

今回の調査では、すべての教科において、本校が江戸川区や全国の平均以上の正答率を上回った。児童の努力や本校の取り組みの一定の成果と捉え、今後も指導を継続していくと共に、課題点は指導計画に反映させていく。